C—15　家庭浴場の衛生学的研究（第2報）
—家庭浴場の実態（奈良県，岡山県，愛知県の場合）—

市邨学園短大　○泉谷　秀子
奥山　静
奈良女大家政　花岡　利昌

1. 第1報には，家族構成，職業，浴場の異なる家庭を対象に，浴水の汚染度について，季節別に理化学的，細菌学的検査を行ない，家庭浴水の汚染の現状を知った。今回はさらに広く一般家庭浴場管理の実態の地域差を知るため，本調査を施行し，ある知見を得たので報告する。

2. 方法は質問紙法によった。被調査家庭は，奈良市周辺（210部），岡山県西大寺市周辺（533部），および愛知県（933部）の家庭を対象とした。回収率は全体的に88.6%であった。

3. 第1報により，浴水の汚染に最も関係するのは，タオルを浴槽内に入れることであった。本調査によれば，総合的にみて67.7%の家庭がこれに相当し，どの地域も多い。特に岡山県西大寺市の農村家庭では約90%の家庭がこれに相当する。また，おき湯では奈良市(33.0%)名古屋市（37.1%）に多い。その他，浴槽材質，燃料，掃除，入浴方法などに関しても家庭管理上将来改善すべき問題がなお，残されていることが判明した。